



学校通信

# 我が輩はトラフズク

令和8年2月24日 No.11

弘前市立第三中学校 (担当: 教頭 前田 達哉)

創造・感動・笑顔

「平等」 + ( ) ≡ 「公平」

校長 小笠原 恭史

「平等」と「公平」、どちらも“等しく”という意味ですが、実は違いがあります。例えば、体育の授業で長距離走をするとき、みんなが同じスピードで10周走るといふ「平等」な練習に対して、長距離が得意な人はできるだけ速く、苦手な人は完走できるスピードで走る、陸上部の練習でマラソン選手は15周、短距離選手は5周など、それぞれに必要な量を走るといふところに「公平」があります。例えば、家庭学習の宿題2ページは、勉強が得意な人にとっては少なく、苦手な人にとっては多いのです。勉強が得意な人は3ページ、苦手な人は1ページなど、それぞれが公平に、自分にとっての精一杯に挑むところに成長があります。

子どもたちが、それぞれの個性や才能を磨き、発揮していく学校、特に中学校段階からは、“等しく”は「公平」が求められます。みんなが同じ量では、得意なことには足りなくて磨かれず、苦手なことには多すぎて嫌になってしまいます。

まず、みんなができる範囲の「平等」からはじめ、そして、それぞれが自分に必要な精一杯に「公平」に挑むことが大切です。

それでも、人より多くに挑むとき「なんで自分だけ多いのか」と思ってしまいそうになることがあります。そのときに、「みんなそれぞれ精一杯なんだ(公平なんだ)」、「自分の精一杯に挑むんだ」と思ってみてください。そう思えたとき胸にある“自分らしく生きるための基準”をPrideといいます。

「平等」を基盤に、「公平」が実現できる学校で人は成長し、そこは誰にとっても居心地のいい学校でもあります。その実現に必要な( )は、それぞれのPrideです。

Prideをもって生きていきましょう。

## 「保護者アンケート」への御協力ありがとうございました。

～いただいた結果を十分に踏まえ、今後の教育活動に生かしていきます。～

\*回答率は約53%でした。「A」回答について、前年比5%以上プラス：**ゴシック**  
5%以上マイナス：**網掛け**で表記しています。(％は小数点以下を四捨五入しています。)

番号	質問内容 (A:よくあてはまる B:あてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない)	A	B	C	D
1	学校は、「関わる・わかる・できる」授業づくりを通して、基礎学力の向上に努めている。	23%	60%	15%	1%
2	学校は、テスト(調査)の結果を基に授業改善するなど学習指導を工夫している。	19%	57%	20%	3%
3	学校は、教室・廊下の掲示や図書を整備、校庭や中庭など、生徒が学ぶ環境を整えている。	34%	58%	7%	1%
4	学校は、生徒からの相談や家庭からの問合せに丁寧に対応するなど、信頼関係の構築に努めている。	35%	54%	8%	3%
5	学校は、いじめのない学校づくりに積極的に取り組んでいる。	19%	52%	25%	5%
6	学校は、道徳の時間をはじめ、日常生活における指導を通して、時間やきまりを守って行動できる子どもを育成している。	22%	54%	19%	5%
7	学校は、各種アンケート等の結果も踏まえ、生徒のよいところや努力を認めるなど生徒理解に努めている。	28%	61%	10%	1%
8	学校は、体育の授業や思春期教室など様々な教育活動を通して、生徒の心身の健康づくりに努めている。	32%	62%	6%	1%
9	お子さんは、「学校が楽しい」と思っている(言っている)。	29%	51%	17%	3%
10	お子さんは、「授業はよくわかる」と思っている(言っている)。	14%	46%	32%	8%
11	お子さんは、家庭での学習に自主的に取り組んでいる。	4%	33%	36%	17%
12	お子さんは、進んであいさつをしている。【小中共通の目標】	20%	51%	26%	3%
13	お子さんは、あきらめず物事に取り組んでいる。【小中共通の目標】	21%	54%	21%	4%
14	お子さんは、友だちに親切にするなど、あたたかい心をもって周りに接している。【小中共通の目標】	34%	59%	6%	1%
15	お子さんは、毎日、朝食を食べてから登校している。	76%	16%	6%	3%
16	お子さんは、進んで運動している。	36%	31%	23%	10%
17	家庭では、学習や進路について話し合うなど、お子さんの学習に関わるようにしている。	37%	55%	6%	2%
18	家庭では、時間や決まりを守る大切さなどについて教えている。	43%	52%	4%	1%
19	家庭では、お子さんのよいところや努力をほめるようにしている。	43%	50%	6%	0%
20	家庭では、「早寝」「早起き」「朝ご飯」の大切さを教えている。	50%	43%	6%	1%
21	学校は、日常から家庭との連絡を密にし、緊急連絡についても適切に行っている。	35%	54%	8%	3%
22	学校は、参観日や学校だより、学年・学級だよりなどで、教育方針や学校の様子などを積極的に伝えている。	42%	51%	6%	1%
23	学校は、PTA活動に積極的に取り組んでいる。	35%	55%	9%	1%
24	家庭では、PTA活動や学校行事、参観日などに参加するようにしている。	23%	50%	21%	5%
25	家庭では、配付される学校だよりや学年・学級だよりなどを読んでいる。	44%	44%	10%	1%
26	学校は、小学校からの積み重ねを踏まえて「授業づくり」や「集団づくり」などを行っている。	27%	57%	15%	2%
27	学校は、小学校からの積み重ねを踏まえ、「弘前」について興味や関心を高めるための活動に力を入れている。	32%	61%	8%	0%
28	学校は、小学校からの積み重ねを踏まえ、心身の健康づくりとそれに向けた活動を行っている。	24%	66%	9%	1%
29	学校は、保護者や地域住民と連携・協働して(保護者や地域住民の支援を受けたり、その意見を教育活動に反映させたりしながら)学校運営を行うよう努めている。	26%	58%	15%	1%

### 【アンケート結果について】

全ての項目において、肯定的回答(A・B)が約8割に達しており、学校の教育活動へのご理解いただきありがとうございます。

前年比で低下した項目や自由記述欄に寄せられたご指摘につきましては真摯に受け止め、今後の実践に具体的に生かしていきます。

保護者の皆様からの回答（「自由記述」）について集約し、項目立てをしました。それぞれについて返答しています。ご不明な点は改めてお問い合わせください。

#### \* 生徒の問題行動への対応

「規律や集団行動の大切さを徹底してほしい」、「不要物の持ち込みを指導してほしい」、「いじめがあるならば改善してほしい」、問題行動に対して「対応が軽い」などのご指摘をいただきました。

ご指摘について同様の課題意識をもって取り組んでいます。いじめや問題行動については、状況に応じて個別指導、全体指導を行い、家庭とも連携しながら段階を踏まえた指導を丁寧に進めています。また、重大事案については、早期把握と適切な初期対応を含め、組織的な指導を徹底します。

他者や社会（集団）への好意的な感情、そしてルールを守る意識は、様々な社会的経験を通して高まるものであり、「規範意識」は自己有用感に根付くとされています。こうした経験の不足は、思いやり、みんなのためにルールを守る（役に立ちたい）という意識の未発達につながると考えられています。

学校において、注意など対処的な指導にとどまらず、授業や特別活動、総合的な学習の時間における関わり合って学ぶ活動を生徒指導を支える重要な基盤として位置づけ、大切にしています。

多様な個性・特性、様々な事情のある生徒一人一人の現状を踏まえ、必要に応じて毅然とした指導も含め、それぞれの腑に落ちる指導を重ねながら、誰もが安心して過ごすことができる集団づくりに引き続き取り組んでいます。

#### \* 教職員の言動への指導

教師は「どのように伝えたか」以上に「どのように伝わったか」について責任をもって指導しなければなりません。中学校教師は教科の専門性はもちろん、思春期の子どもと関わる専門性が必要であり、常に研鑽していかなければなりません。教師の言葉や行動が、子どもたちの人格形成に大きく影響を及ぼすものであることを自覚して指導に当たっていきます。

#### \* 「入学前から学校に伝えている事柄について学校で情報を共有し、配慮が必要な生徒に対応してほしい。」

小学校から引き継いだ情報、また、直接、保護者の方からいただいた情報等について、担当学年を中心に関係職員で共有し、支援・配慮につなげます。

#### \* 「自分で課題を見つけて進めない子もいるので、自宅で机に向かう習慣づけになるような宿題（課題）を出してほしい。」

家庭での学習において、長く行ってきた「一人勉強ノート」（主に視写による「基礎・基本」の定着）はやめ、各教科からの「宿題」に移行しました。まずは、宿題をきちんとやるようお願いします。

習慣化について、始めには一定程度の“やらせる（強制）”が必要であることは否定できませんが、この世代においては、内発的動機づけ（意識の高まり）が不可欠です。例えば“受験勉強の取り掛かりが遅い・家庭での学習の習慣がない”というのは、それを裏づける進路意識の高まりに向けた指導を、もっと重ねていかなければならないと考えています。

家庭における自主的な学習につながる指導を一層行っていきます。

#### \* 「難しい内容が理解できないままになっているので、分からないところに時間をかけたり、少しの時間でもいいので質問する時間などがあったりすればいい。全ての生徒が安心して学習に臨むことができる学校にしてほしい。」

学年によって、昼休みに学年フロア・控え室に5教科担当の先生が待機し、質問に来た生徒に勉強を教えています。テスト前には質問教室を設けたり、大学生による「スタディールーム」を開催したりしていますので積極的に活用してください。

教師も日頃から生徒のつまずきに目を配り、分からないところの指導に時間をかけたり、個別の質問に丁寧に答えるようにしていきます。

#### \* 「弱者に寄り添う教育を行ってほしい。」

大勢・多数が正義とは限りません。また、“みんなができることを普通に”と求められがちですが、その基準は主観的であり、できないことがだめではありません。

本校では、協力の形は“互いの違いを生かし合う協働”、意見の集約は、互いの違いに折り合いを付ける“対話”を大切にしよう指導しています。

子ども社会に限らず、ワガママや横暴が罷りとおりに、譲り合い、思いやる人が損をし、いつしか弱者に追いやられるような風潮も感じます。教師が、個性や特性、事情など互いの違いを尊重し、共生社会を担う子どもたちを育てていくという課題意識を高くもち、日常の指導に当たっていきます。

また、他学級の担任や副担任、スクールカウンセラー、心の教室相談員など、誰にでも相談できる相談体制を一層整えていきます。

#### \* 「不登校の生徒への情報提供があまりないので不安です。」

家庭訪問や電話等で連絡を行っております。定期的な訪問や連絡を基本としながらも、必要な情報はその都度お伝えします。

#### \* 「学校に行けない生徒のためオンラインで学習できる体制を整えてほしい。」

オンラインによる学習支援については有効な手段の一つと考えていますが、対面による関わりや学校生活の意義も踏まえ、活用方法や期間等については慎重な判断が必要であると考えています。

本校では、まず本人の状況や思い、保護者の願いを丁寧に確認した上で、登下校時間や活動場所等の調整を含めた環境調整による支援を基本としています。その上で、登校が難しい状況にある生徒の学習機会を確保するための方法として、オンラインを含む支援の在り方を検討していきます。

#### \* 「子どもが手紙等を出さないことがあり、手元に届かないので、LEBERに添付してほしい。」

緊急性のあることはLEBERに添付して送信しています。また、既に行っておりますが、配布物の内容をLEBERでお伝えしております。（希望制）

学校からの連絡や配布物が、確実に保護者のお手元に届くように一層改善していきます。

#### \* 「翌月の予定が、年度初めの年間予定表と変わることがあるので、前の月の初めには教えてほしい。」

急な変更等については、LEBERを活用してお知らせします。毎月末に発行している「学校通信」等で、次の月の予定をお知らせしています。ご活用ください。

#### \* 「PTAの活動の状況があまり見えず、保護者の連携につながっていないように感じます。もっと保護者がPTA活動に参加しやすくなるように保護者の交流を図る方法があればいいと思います。」

PTA活動は、P（保護者）とT（教師）との交流によって築かれる関係を基に、子どもたちが充実した学校生活を過ごすために今後一層大切であると考えています。そのような点において、誰もが参加しやすいということを常に前提として、よりよい活動にしていくことが大切だと考えています。

活動状況については、令和7年9月に立ち上げた「ホームページ」や「通信」等で一層の周知に努めていきます。また、交流については、計画されている三・中祭のお手伝いやあいさつ運動等の活動自体での交流に加え、懇談会や茶話会、「三中の子どもたちの未来について語る会」なども行ってきました。

今後も、誰もが参加しやすいPTA活動に向けて工夫していきます。

#### \* 「ジャージの名札の縫い方や取り付け位置が分からなかったため、入学前に教えてほしい。」

新入生入学説明会で、ジャージの名札の取り付け方等をお知らせしています。欠席したご家庭には、資料をお届けしていますのでご参照ください。

## 高校入試・卒業に向けて

＊「車で送迎時、生徒が車の前を歩いて危ないので、歩く場所や駐車する場所を決めるなどしてほしい。」

駐車場所や生徒の歩く経路などを再確認（周知し）、安全に通行できるようにします。また、行事等で保護者が来校する機会にもお知らせ等を通じて、校地の交通安全を徹底していきます。

＊「保護者が送迎できないこともあるので、自転車通学を認めてほしい。」

朝の学校前道路の交通状況において、決まった時間に集中して多くの生徒が自転車で来ることの危険を回避したい、学区が学校周辺2km以内に入っている（徒歩約30分圏内）、自転車置き場を十分に確保できないことなど総合的に踏まえて自転車通学を行っていません。申請に基づき特別に許可している場合がありますが、ヘルメットの着用など安全ルールを守らない状況が増えており、安全管理上、一層厳密にしていかなければと考えているところです。自転車の交通違反については、令和8年4月からの罰則や運用などの見直しが進められています。

今後も事故やトラブルのない安全な登下校に向けて指導を継続していきます。

＊「三中祭を1日でいいので、土日開催にしてほしい。」

より保護者の方が参加しやすいようにという考えは常に大切にしています。しかし、この時期は、中体連新人戦、各種大会などがあり、また、祝日も続き、振替休日をとることが難しい面があります。また、土日が休日ではないご家庭も少なくないことも踏まえ、総合的に判断して平日開催にしております。

＊「思春期教室の内容が小学校でもやっていることなので、踏み込んだ内容にしてもいいと思います。」

本校では、各学年ごとに思春期教室を実施しています。今後、「第三中学校区における性教育年間指導計画」を基にして、小学校との情報共有（連携）を図りながら内容を検討していきます。

＊「弘前は歴史と文化がある街なので、ねぶた囃子や郷土料理づくり、りんご農家の手伝いなどがあれば、子どもたちのよい経験になると思います。」

本校では、全学年で総合的な学習の時間に、ふるさとの「人・もの・こと」を題材にした探究学習「ふるさと学習」を行っています。その中で、弘前の歴史や文化について調べたり、凧絵制作などの体験学習、職場体験学習などを行っています。

今後も、郷土の教育資源を幅広く活用した教育活動に取り組んでいきます。

＊「アンケートは無記名の方がいいのでは。選択肢に『わからない』を入れてほしい。」

“記名・無記名”について、アンケートの趣旨・内容によって、それぞれの効果があると考えます。本校において、本アンケートの趣旨・内容を鑑みて判断していきます。「4件法（4択）」にしているのは、「どちらでもない」という回答を極力避けたいというところがあります。しかしながら、「どちらでもない」と「わからない」は、意味が違いますので検討していきます。

＊「トイレの入りがプライバシーがないので、カーテンなど目隠しをした方がいいと思います。」

安全管理上の理由によるものですが、プライバシーへの配慮は必要だと認識しています。今後、他校の状況も踏まえ、教育委員会に問い合わせるなど検討していきます。

＊「部活動でクラブ活動に転換する時期はいつ頃になりますか。学校ではどのように進んでいますか。」

弘前市教育委員会から、部活動改革の方向性として、令和8年度から、できるところからクラブ化を進め、令和10年度には80%をクラブ化することを目指すと示され、本校では、それに準じて進めています。

### 入試事前指導

2月4日（水）、私立高校入試を翌日に控え、入試事前指導を行いました。

校長からは、私立高校入試と県立高校入試の違いや入試当日の心構えなどの具体的なお話がありました。

その後、各高校ごとに別れて、担当の先生から諸注意がありました。

表情には不安も感じられましたが、会場を出て行く後ろ姿には、それぞれの進路へと向かい始めたたくましさを見ました。



### 校内環境整備

2月5日（木）、既に進路が決まっている3年生が、玄関清掃など校内環境整備に取り組んでくれました。

卒業まで後1ヶ月となり、入試に挑む仲間分も、お世話になった校舎への感謝の気持ちを込めながら、下足箱の清掃に取り組んでくれました。

いつも同じときに同じことをしてきたそれぞれが、違う場所で、違う思いを抱きながら活動する姿に、卒業式に向かう季節の訪れを感じました。



## PTA合同役員会がありました。

2月13日（金）、三中学区小・中PTA連絡協議会第3回役員会が行われました。各校から今年度の活動（成果と課題）について報告されました。続いて、本会の規約について、弘前市連合父母と教師の会（市連P）への要望について話し合いが行われました。

市連Pについては、今後、教育環境の見直しが進んでいくことが想定される中、果たす役割が重要となっていくことを踏まえ、「改革検討会議の設置」と「事務局体制の強化」について要望することになりました。

最後に校長から、「PTA活動は、“まとまる”以上に“広げる”ことを大切にしていきたい。」と話がありました。



## 3月の予定

2日（月）短縮①～⑥、⑤⑥3年：卒業式練習  
 3日（火）短縮①～⑤、⑤3年：卒業式練習  
 4日（水）1、2年：短縮①～⑤、⑥卒業式練習  
 3年：短縮①～④、⑤入試事前指導  
 5日（木）1、2年：平常①～⑥＊実力テスト  
 3年：県立高校入学試験日  
 6日（金）1、2年：短縮①～④  
 3年：①自己採点、②～④卒業式練習  
 全校：⑤⑥卒業生を送る会  
 7日（土）卒業式予行・卒業式準備  
 ＊生徒8:30登校  
 ＊3年：11:55下校  
 ＊1、2年：給持参 下校15:00  
 8日（日）卒業証書授与式  
 ＊生徒9:00登校

9日（月）・10日（火）振替休業日  
 11日（水）短縮①～⑤、①卒業式後片付け  
 12日（木）短縮①～⑤、職員会議  
 13日（金）短縮①～⑥  
 3年：県立高校合格発表  
 16日（月）短縮①～⑥  
 17日（火）短縮①～⑤、⑥学年末大清掃  
 18日（水）短縮①～⑤、職員会議  
 19日（木）平常①～⑤  
 23日（月）平常①～⑤  
 24日（火）平常①～⑤  
 25日（水）修了式、離任式  
 ＊下校11:05 給食なし  
 26日（木）春季休業～4/5  
 ＊変更になる場合もあります。